

## 「第 110 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 4 年 12 月 28 日（水）15 時 45 分  
都庁第一本庁舎 7 階 特別会議室（庁議室）

### 【総務局理事】

それでは、ただいまから第 110 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日も感染症の専門家の先生方にご出席いただいております。

東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長の猪口先生。

同じく戦略ボードのメンバーで、国立国際医療研究センター国際感染症センター長の大曲先生。

東京 iCDC からは、所長の賀来先生に、本日は Web でご出席をいただいております。

そして、医療体制戦略監の上田先生にご出席いただいております。

よろしく願いをいたします。

なお、武市副知事、潮田副知事、宮坂副知事、他 6 名の方につきましては、Web での参加となっております。

それでは議事に入って参ります。

まず、「感染状況・医療提供体制の分析」の報告です。

「感染状況」につきまして、大曲先生からご報告をお願いいたします。

### 【大曲先生】

それでは、報告をいたします。

感染の状況であります。色は「オレンジ」であります。「感染が拡大している」としてあります。

新規の陽性者数の 7 日間平均であります。9 週間連続して増加傾向にあります。季節性のインフルエンザが流行入りした中、年末年始は警戒感が薄れるおそれもあります。新規陽性者数の増加をできる限り抑制するため、基本に立ち返って感染防止対策を徹底する必要があります、といたしました。

それでは、詳細についてご報告をいたします。

まず、①の新規陽性者数でございます。

7 日間平均でございますが、前回の 1 日当たり約 16,324 人から、今回 1 日当たり 17,423 人になりました。今週先週比は約 109%でございます。

7 日間平均でございますが、9 週間連続して増加傾向にあります。今週先週比も前々回の

約 120%から、前回は約 114%、今回は約 109%と、連続して 100%を上回っております。前回の冬の第 6 波、夏の第 7 波と比べまして、今回の感染拡大局面は、新規陽性者数の増加スピードが緩やかであります。9 週間連続と長期にわたって増加傾向にありまして、減少の兆しが依然として見られないという状況であります。

今回の今週先週比約 109%であります。これが継続しますと、2 週間後には 1.19 倍の 1 日当たり約 20,700 人の新規の陽性者の発生が予測されます。これは第 6 波のピーク時を超える感染状況となります。新規陽性者数の増加傾向が続く中、年末年始にイベントあるいは会食などによる人の移動あるいは接触機会が増えますと、感染が一気に拡大する可能性もあります。

また、感染の拡大によって、就業制限を受ける方が多数発生しております。医療提供体制が十分機能しない状況になりつつあります。社会機能の低下が危惧をされます。医療従事者、エッセンシャルワーカーをはじめ誰もが家庭や日常生活において感染者や濃厚接触者となる可能性があることを意識をして、自ら身を守る行動を徹底する必要があります。

また、年末年始であります。警戒感が薄れるおそれがあります。新規陽性者数の増加をできる限り抑制するため、人の集まる屋内では暖房の使用中でも定期的な換気を励行し、3 密の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを場面に応じて正しく着用すること、手洗いなどの手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒など、今一度基本に立ち返って感染防止対策を徹底する必要があります。

また、都内では、医療機関からの患者報告数が目安を超えて、3 年ぶりに季節性インフルエンザの流行シーズンに入りました。新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行が現実味を帯びております。更に警戒を強める必要があります。

自身や家族等の感染に備えて、新型コロナの検査キット、市販の解熱鎮痛薬などや、1 週間分の食料品、そして生活必需品などを備蓄しておく必要があります。また、体調の変化した時など、迷った時には、相談窓口で電話をして、発熱や咳、咽頭痛などの症状がある場合、重症化リスクの高い高齢者、小学生以下の小児、妊婦や基礎疾患がある方は、速やかに発熱外来を受診する必要があります。

また、重症化リスクの低い方は、まずは新型コロナの検査キットで自己検査を行って、検査の結果を確認した上で、陽性であった場合には陽性者の登録を行い、陰性だった場合でも季節性インフルエンザの可能性はありますので、受診につなげる必要があります。

診察あるいは薬の処方希望する場合には、「東京都臨時オンライン発熱診療センター」で受診することも可能であります。

65 歳以上の高齢者に対するオミクロン株対応ワクチンの接種率であります。12 月 26 日の時点で 63.8%になりました。全人口で見ますと 34.8%、12 歳以上ですと 38.3%となっております。更に接種を促進する必要があります。

また、オミクロン株対応ワクチンであります。従来株のワクチンを上回る重症化の予防効果とともに、感染予防効果や発症予防効果も期待でき、また、ワクチンの接種が倦怠感や

咳といった後遺症の発症を減少させる可能性を示唆するという研究もあります。こうしたことを若い世代にも周知をして、早期のワクチンの接種を呼びかけることによって、感染の拡大をできる限り抑制する必要があります。都では地元の区市と連携をして、臨時の接種会場を設置しています。

また、都が実施しているゲノム解析によりますと、BA.5 系統の割合が、12月12日までの1週間で受け付けた検体では約63%まで減少しています。一方で、オミクロン株の亜系統であります、「BQ.1.1 系統」、「BF.7 系統」、「BN.1 系統」、「BA.2.75 系統」及び「XBB 系統」などの割合が上昇しています。これまで主流であった BA.5 の系統から、これら亜系統への置き換わりが進む過程で、新規の陽性者数が急激に増加することに警戒が必要であります。

次に、①-2 でございます。

新規陽性者数に占める割合、年代構成を見ております。30代が17.9%と最も高く、次いで20代が17.6%でありました。今後の動向を注視する必要があります。

次に、①-3 に移って参ります。

新規陽性者の中の65歳以上の高齢者数であります。先週の10,048人から、今週は11,048人に増加をし、その割合は9.2%であります。

7日間平均を見ますと、前回の1日当たり約1,488人から、今回は1日当たり約1,610人となりました。

このように、新規の陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、増加の傾向が続いております。高齢者は重症化のリスクが高く、入院期間も長くなります。引き続き今後の動向に警戒が必要でございます。

次に、①-5 であります。

第6波以降、新規陽性者数の7日間平均が最も少なかった日、これが6月14日ではありますが、ここを起点として、12月18日までに都に報告があった新規の集団発生の事例であります。福祉施設が2,889件、学校・教育施設は142件、医療機関は396件でありました。

このように、今週も複数の医療機関そして高齢者施設等で施設内の感染の発生が報告されております。また、医療や介護の従事者が欠勤せざるを得ないことも、施設の運営に影響を与えますので、従事者、そして入院患者及び入所者は、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、ワクチンの接種を一層促進する必要があります。

次、①-6 でございます。

都内の医療機関から報告された新規の陽性者数の保健所区域別の分布を人口10万人当たりで見えております。色分けがされております。地図でいきますと、右側であります。都内の全域、中でも区部の中心部が高い値となっております。

次、②であります。

#7119における発熱等の相談件数でございます。この7日間平均は、前回は1日当たり127.1件、今回は1日当たり144.9件に増加しています。また、小児の発熱等相談件数の7

日間平均であります。前回は1日当たり38.1件、今回も同じく38.1件です。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均であります。前回は1日当たり約4,345件、今回は1日当たり約4,797件であります。

発熱相談センターにおける相談件数であります。高い値のまま増加の傾向が続いております。季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症との同時流行も念頭に、過去最大規模の発熱患者が発生することを想定し、発熱相談センターの体制を強化をしています。

都では、#7119、そして発熱相談センターのほかに、土日・祝日を含む毎日24時間開設している相談窓口として、小児の救急電話相談#8000、自宅療養サポートセンター、いわゆるうちさぼ東京、これらを設置しております。状況等に応じた活用を周知しております。次、③です。

検査の陽性率でございます。行政検査における7日間平均のPCR検査等の陽性率ですが、前回は39.5%、今回は40.0%でありました。7日間平均での検査等の人数であります。前回は1日当たり約20,241人、今回は1日当たり約21,196人となりました。

検査の陽性率であります。40.0%と上昇傾向が続いております。これ以外にも、把握されていない多数の感染者が潜在していることも考えられます。注意が必要であります。

都は、抗原定性検査キットを全世代の「濃厚接触者」、そして「有症状者」を対象に無料で配付をしていますし、都ではリーフレットを作成をして、検査キットを事前に薬局等で個人購入し、備蓄するよう都民に呼びかけております。

都では、都内に在住する、医療機関の発生届の対象者、具体的には、65歳以上の方、妊婦さん、そして入院を要する者、新型コロナウイルス感染症の治療薬あるいは酸素投与を要する者、これ以外で自己検査陽性の方、もしくは医療機関で陽性の診断を受けた方の登録を24時間受け付ける「東京都陽性者登録センター」の運営をしております。今週、自己検査が陽性で報告された方は、30,087人で行いました。

私からは以上でございます。

#### 【総務局理事】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からご報告をお願いいたします。

#### 【猪口先生】

はい。医療提供体制に関する総括コメントの色は「赤」、「医療体制がひっ迫している」としています。

入院患者数は約4か月ぶりに4,000人を上回りました。医療機関では、一般救急受診等の増加や、医療従事者等の就業制限により、通常の医療との両立に支障が生じつつあり、医療提供体制がひっ迫してきております。

では、個別のコメントに移ります。

このシートは、オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析についての表であります。内容については個別のコメントと重なりますので、後でご覧になってください。

④救急医療の東京ルールの適用件数です。

東京ルール of 適用件数の 7 日間平均は、前回の 1 日当たり 242.3 件から、252.6 件となりました。

新規陽性者数が増加する中、東京ルール of 適用件数の 7 日間平均の増加傾向が続いており、一般救急を含めた救急医療体制に影響が及んでおります。特に年末年始は、「東京版救急受診ガイド」の Web 版、それから「救急相談センター#7119」などを活用し、適切な救急受診を呼びかける必要があります。

都内の救急出動件数は年間累計が過去最多を更新するなど増加しており、救急車の出勤率は高い状態が続いております。救急搬送では、救急患者の搬送先決定に時間を要し、救急車の現場到着から病院到着までの時間は延伸しております。年末年始にかけて、更に困難な状況に陥ることが強く懸念されます。

⑤入院患者数です。

入院患者数は、前回の 3,862 人から 4,184 人となりました。

入院患者のうち、酸素投与が必要な患者数は前回の 400 人から 418 人となり、入院患者に占める割合は前回の 10.4%から 10.2%となっております。

今週新たに入院した患者数は、先週の 1,751 人から 1,870 人となり、入院率は 1.6%でした。

都は、感染拡大の状況を踏まえ、軽症・中等症用の病床確保レベルをレベル 2 の 7,291 床としており、12 月 27 日時点で、確保を要請した病床の使用率は、前回の 51.9%から 55.4%となり、また、即応病床数は 6,046 床で、即応病床数に対する病床使用率は 69.2%となっております。

入院患者数は、非常に高い水準のまま増加傾向が続いており、8 月下旬以来、約 4 か月ぶりに 4,000 人を上回りました。医療機関では、一般の救急受診や救急搬送の増加への対応に加え、感染等により就業制限を受ける医療従事者等が多数発生し、受入体制の確保が困難になってきております。新型コロナウイルス感染症のための医療と、通常医療との両立に支障が生じつつあり、医療提供体制がひっ迫してきております。

年末年始を控え、都は、東京都医師会等の協力のもと、発熱外来を一層強化するとともに、更なる感染拡大に対応するため、「東京都臨時オンライン発熱診療センター」を設置し、重症化リスクの低い方の診療体制の強化を図っております。また、年末年始に帰省・旅行する都民に向け、主要ターミナル駅など 8 か所に臨時の無料検査会場を設置いたしました。

入院調整本部への調整依頼件数は、501 件と高い値で推移しております。高齢者や併存症を有する者など、入院調整が難航する事例も複数発生しております。

⑤-2。

入院患者の年代別割合は、80 代が最も多く全体の約 35%を占め、次いで 70 代が約 22%

でした。

入院患者のうち重症化リスクが高く、入院が長期化する傾向がある 60 代以上の高齢者の割合は、約 84% と高い値のまま推移しております。第 6 波の入院患者数のピーク時の約 72% と、第 7 波の約 76% を上回っており、医療機関の負担の増加要因となっております。

都では、高齢者等医療支援型施設を 12 月 26 日に新たに 1 施設開設し、合計 8 か所、最大 692 床とするとともに、酸素・医療提供ステーションにおける患者の受入対象を拡大するなど、重症化リスクの高い高齢者の療養体制を強化しております。

⑤-3 です。

検査陽性者の全療養者のうち、入院患者数は 4,184 人、宿泊療養者数は 3,494 人、自宅療養者等の人数は 114,285 人、全療養者数は 121,963 人でした。

発生届対象外の患者であっても、東京都陽性者登録センターに登録することで、健康観察、宿泊療養施設等への入所、食料品等の配送など、療養生活のサポートが受けられることを、引き続き都民に周知する必要があります。

都は、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て、30 か所の宿泊療養施設を運営しております。現下の感染拡大に対応するため、宿泊療養施設の稼働レベルをレベル 2 に引き上げ、11,509 室、受入可能数 8,150 室で運用しております。

⑥重症患者数です。

重症患者数は、前回の 42 人から 49 人に増加いたしました。年代別内訳は、10 歳未満が 3 人、10 代が 2 人、30 代 1 人、40 代 2 人、50 代 9 人、60 代 8 人、70 代 12 人、80 代 10 人、90 代 2 人であります。性別は、男性が 34 人、女性 15 人でした。また、重症患者のうち、ECMO を使用している患者は 4 人です。

人工呼吸器又は ECMO を使用した患者の割合は 0.03% でした。

今週、新たに人工呼吸器又は ECMO を装着した患者は 39 人、離脱した患者が 19 人、使用中に死亡した患者が 13 人でした。

今週報告された死亡者数は 143 人。30 代が 3 人、40 代が 2 人、50 代が 2 人、60 代 13 人、70 代 20 人、80 代 62 人、90 代 39 人、100 歳以上 2 人でした。12 月 27 日時点で累計の死亡者数は 6,685 人となっております。

今週、人工呼吸器を離脱した患者の装着から離脱までの日数の中央値は 6.0 日、平均値は 7.2 日でした。

救命救急センター内の重症者用病床使用率は、前回の 76.5% から 77.5% となっております。

12 月 27 日時点で、重症患者数は 49 人と、先週に続き増加しており、すでに第 7 波のピーク、これは 8 月 13 日の 43 人ですけれども、それを上回りました。小児も含め、年代も多岐にわたっております。高齢者のみならず、ワクチン未接種者、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても、重症化リスクが高まることが分かっております。また、感染により、併存する他の疾患が悪化するリスクや治療に影響を与える可能性を有していることを啓発する

必要があります。

新規陽性者数の増加に伴い、中等症患者が増加すれば、一定割合で重症患者が発生する可能性が高く、今後の動向に注意が必要であります。

#### ⑥-2

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は、前回の 94 人から 127 人に大きく増加いたしました。

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者 127 人のうち、人工呼吸器又は ECMO を使用している患者が 49 人、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が 40 人、その他の患者が 38 人です。

オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、前回の 24.5% から 33.2% に大きく上昇しております。

オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数及び重症者用病床使用率は、今回ともに大きく増加しており、引き続き、今後の動向に警戒する必要があります。

#### ⑥-3 です。

新規重症患者数の 7 日間平均は、前回の 1 日当たり 6.4 人から 5.6 人となっております。私の方から以上です。

#### 【総務局理事】

ありがとうございました。

ただいまの分析報告の内容につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。

よろしければ、「都の対応について」に移ります。

この場でご報告のある方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしければ、「東京 iCDC からの報告」に移ります。

賀来所長から、「分析報告」についてのコメント、そして、「都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング」及び「変異株の状況」につきまして、ご報告をお願いいたします。

#### 【賀来所長】

はい。まず「分析報告」についてコメントさせていただき、続いて「繁華街滞留人口のモニタリング」、「変異株」について報告をいたします。

まず、分析報告へのコメントです。

ただいま、大曲先生、猪口先生より、感染状況、医療提供体制について、ご発言がございました。

感染状況は「橙色」で、新規陽性者数の 7 日間平均は、9 週間連続して増加傾向にあり、さらに季節性インフルエンザが流行入りしたとのことです。

医療提供体制は、先週「赤色」に 1 段階上がっています。約 4 か月ぶりに入院患者が 4,000 人を上回っており、一般救急受診等の増加や医療従事者等の就業制限により、医療提供体制

はひっ迫してきているとのことでした。

また、大曲先生からもお話がありましたが、東京都では3年ぶりにインフルエンザの流行シーズンに入りました。今後、本格的な流行が懸念されることから、新型コロナとインフルエンザとの同時流行が、現実味を帯びてまいりました。

さらなる流行拡大を防止するためにも、ワクチン接種や、こまめな手洗い、マスクの適切な着用などの基本的な感染防止対策を徹底することが重要です。

また、発熱時に備えて、ご自身の受診、療養行動を今一度ご確認いただくとともに、解熱鎮痛薬や食料品といった備蓄を行うなど、より一層の注意を払っていただくことも重要であると考えます。

続きまして、都内主要繁華街の滞留人口の状況につきまして、その状況について、西田先生の資料をもとにご説明いたします。

次の資料をお願いします。

今回の分析の要点です。

レジャー目的の夜間滞留人口は、直近1週間で更に増加し、新型コロナ流行後、最も高い水準に到達しています。

それでは個別のデータについて説明します。

次のスライドをお願いします。

青色の線で推移が示されている18時から24時までの夜間滞留人口は、前の週と比べ4.7パーセント増加と、2週続けて上昇し、新型コロナの流行が始まった2020年3月以降で、最も高い水準に到達しています。

次のスライドをお願いします。

資料の上段は、紫色の線が20時から22時、水色の線が22時から24時の夜間滞留人口の推移を示したグラフです。

資料下段の実効再生産数の値ですが、直近7日間の平均では、「1.09」と「1」を超えており、感染の拡大傾向は継続しています。

今後、年末年始を迎え、日頃会わない人との接触機会も増えてまいります。基本的な感染対策を徹底し、ワクチン接種を更に推進することが重要です。

滞留人口の説明は、以上となります。

続きまして、変異株について報告させていただきます。

このスライドは、ゲノム解析結果の推移について、直近6週間の動きを示したものです。

スライド見られますように、11月29日から12月5日の週と、12月6日から12日の週とを比較すると、現在主流を占めているBA.5系統の割合が、68.7%から63.3%に減少している一方で、BA.5の亜系統であるBQ.1.1系統が9.0%から11.7%、BF.7系統が7.8%から9.6%、BQ.1系統が2.5%から3.2%、また、BA.2.75系統の亜系統であるBN.1系統が6.6%から7.8%と、新たな亜系統が全体的に増加しており、今後の推移に一層の注意が必要と思われれます。



次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、過去1年間のゲノム解析結果の推移です。

12月における解析結果ですが、11月と比較して、BA.5系統が減少している一方で、BQ.1.1系統、BF.7系統、BN.1系統といったオミクロン株の新たな亜系統の割合が増加してきております。

次のスライドをお願いします。

こちらは、先ほどのグラフの内訳であります。

「BA.2.75系統」が前回から214件増えて1,182件、「BN.1系統」が516件増えて2,076件、「BQ.1.1系統」が738件増えて3,081件、「XBB系統」が25件増えて249件、これまでに確認されております。

次のスライドをお願いします。

こちらは、オミクロン株の亜系統に対応した、変異株PCR検査の結果について、変異株の置き換えりの推移を比較したグラフです。

都内における感染の主体は、先ほどのゲノム解析と同様に、赤色でお示ししているBA.5系統、54.5%となっておりますが、オレンジ色でお示ししているBQ.1.1系統が15.1%、紫色のBF.7系統が14.4%、ピンク色のBA.2.75系統が4.5%、えんじ色のXBBが0.3%と、新たな亜系統への置き換えりが進んでおります。

次のスライドをお願いします。

こちらは、先ほどのグラフの内訳です。

12月6日から19日までの2週間で、「BF.7系統」が142件、「BQ.1.1系統」が104件、「BN.1系統」が66件確認されています。また、BA.5系統については、486件が確認されています。

東京iCDCでは、引き続き、陽性者の検体のゲノム解析や変異株PCR検査を実施し、動向を監視してまいります。

私からの報告は以上です。

#### 【総務局理事】

ありがとうございました。

ただいまの賀来所長からのご報告等につきまして、何かご質問等ございますでしょうか。よろしければ、会のまとめといたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

#### 【知事】

はい。今日で110回になりましたモニタリング会議。

本日も猪口先生、大曲先生、そして、今日はWeb参加いただきました賀来所長、そして上田先生、年末のお忙しいところ、ご出席、誠にありがとうございます。

感染状況、医療提供体制、先週と変わらず、それぞれ「オレンジ」「赤」となっておりま

す。

新規陽性者数は9週間連続して増加傾向にある、また、基本に立ち返って、感染防止対策を徹底する必要がある。

入院患者数は4か月ぶりに4,000人を上回った、医療提供体制がひっ迫してきている、とのご報告、先生方からいただきました。

年末年始の医療提供体制ですが、医療機関にもご協力をいただきまして、検査や発熱外来、発熱相談、自宅での療養体制など、円滑に確保できますよう、しっかりと連携をお願い申し上げます。

そして、発熱などの症状が出ました場合には、重症化リスクや症状に応じて対応できますよう、都民の皆様へわかりやすく周知をしてください。

また、感染防止対策の3つのポイントであります、「速やかなワクチン接種」、「守りの換気、マスク」、「医薬品などの備え」につきまして、様々な手法で呼びかけてください。

さて、年末年始も福祉や医療、警察、消防、交通、そして上下水道など、都民の生活を支える各現場におきまして、都民の安全・安心を確保するために、職員の皆様方にはご精励いただくようお願いを申し上げます。

今日もご苦勞様でございました。また1年間ご苦勞様でございました。大変お世話になりました。頑張って参りましょう。

#### 【総務局理事】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第110回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

なお次回の会議日程は、別途お知らせをいたします。

ご出席どうもありがとうございました。